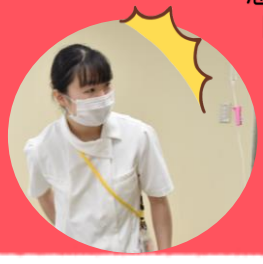
看護部ニュース

2022.11月号

多重課題編

入職して半年が過ぎました。新人看護師たちは、それぞれの部署で業務に奮闘中です！
そんな中「多重課題」研修が行われました。
この研修は病棟で実際に起こりうる状況を設定したロールプレイング形式です。
対応する患者さんの背景や状況説明を受け、一人ずつシミュレーションを実施します。
その後グループワークで気付いたことを先輩看護師を交えて話し合いまとめて発表、
最後に先輩の対応したビデオを見るというとても盛沢山な内容です。



Aさんの点滴を用意していると同室Cさんのベットで呼ぶ声が・・
「看護師さん！
トイレに行きたい！」
認知症で介助が必要な患者さんです。
「お待ちください」の指示が通りません。
意思疎通が難しく転倒の危険があり慌ててしまいます。

急いでトイレの介助に向かうと・・
「痛い、痛い、看護師さん」と隣のBさんのベットから呼ばれます。

心の中ではこんな顔
でも冷静に対応できました！

痛みを訴え薬を欲しがるBさんはすぐに効くのかしら、今飲んだら次はどのくらいで飲めるのかしら・・
色々な不安や疑問を抱え精神的に気持ちが落ち込んでいます。

痛いですね。お薬用意しますね。

患者さんの精神的・心理状態を理解し、話を傾聴することが大切ですね。

個人ワークで自己の傾向、今後の課題を考え、その後先輩を交えグループワークで話し合い反省と学びを振り返ります。

目を見て話しを聞きます。

痛みに配慮しながらギャッチアップ

厳しく、ときには暖かく見守りながら、
一人ひとり指導していきます

多重課題研修では、危険予知、優先順位の判断、そして患者様の気持ちに寄り添うことができるかがポイントです。
グループワークでは、「『痛み止めは何分後に効いてくるの？ 効かなかったらまたすぐ飲めるの？』という患者様の質問に戸惑った。薬の知識も必要だし、痛みに不安を抱えている患者様の気持ちを和らげる必要性を感じた」、「実際に起こり得ることだと思い、身の引き締まる思いで研修を受けた」、「慌ててしまい、『お待ちください』しか言えなかった」など、さまざまな意見や感想が挙がり、研修生全員で反省と学びを共有しました。

教育担当者からは、「患者様の立場では『お待ちください』だけでは解決できないので、声掛けには、説明と患者様の納得が大切」、「ナースコールを手元に置いてくれたり、トイレの際カーテンを閉めてくれたりなどの細やかな配慮があるだけでも安心する」、「一人で解決しようとして焦るとインシデントに繋がる恐れがある。PHSを使ってほかのスタッフを頼るのは間違いじゃない」などのアドバイスをいただきました。

国際医療福祉大学
市川病院

〒272-0827
千葉県市川市国府台6-1-14
電話047（375）1111
看護部サイトはこちら⇒